

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 15, No. 1

神奈川県立生命の星・地球博物館

Mar., 2009



地質写真家がとらえた地球の姿 — 46億年 地球のしごと —

1	2
3	5

- 1: ナムバン公園のピナクルズ
- 2: 化石の森国立公園の珪化木
- 3: ウルフクリーク・クレーター
- 4: 氷河が運んだ迷子石
- 5: ハメルンプールのストロマトライト

写真: 白尾元理 (地質写真家)
文: 平田大二 (学芸員)

世界には、実にさまざまな不思議な地形や地質景観があります。それらの景観は、地球の46億年というとても長く長い時間の中で、自然の作用によって作りあげられてきたもので、いわば「地球のしごと」といえます。地質写真家である白尾元理さんは、そのような世界の地形・地質景観を撮り続けています。当館では、白尾さんが撮影した写真と当館の標本とのコラボレーションによる企画展「46億年 地球のしごと」を開催しました (p.7～8 参照)。

上の写真は、その際に展示したものの一部です。写真1は浸食作用によってできた石灰岩の塔の群れ、2は大木が地層にもまれて化石となった珪化木です。3は隕石が衝突してできた大きな孔、4は氷河がはるか遠くから運んできた巨石です。5は、光合成により酸素を発生する微生物が作り出した岩石です。

このような景観は、有名な観光地になっていることもあります。皆さんも「地球のしごと」を楽しんでみませんか？